

夢洲調査報告 20190715 (水辺のいきもの)

公益社団法人 大阪自然環境保全協会 生物多様性委員会



その日は祝日だったため、環境組合管轄の1区に入場することはかなわなかったが、11時から15時ごろまで、2区3区のエリアで調査をした。風が弱く、大変蒸し暑い日だった。

今回もまた、池のエリアが減少している。2区の工事は続いていたが、3区は前日の雨のため、草が5cmほど水につきり湿地状になっていた。草の上はたくさんのシオカラトンボやアオモンイトトンボが飛び回っていた。

野鳥類は前回と変わらず、3区の池ではカイツブリの営巣、カルガモの子育てが見られ、カワウ、サギ類も多かった。ホシハジロの姿も複数見られた。



また、3区と1区の尾根道沿いの電柱と周囲の草地では、毎回チョウゲンボウが顔を見せるが、今回は大きさと色合いの異なる二羽を確認、と思ったが、帰って写真を確認したところ、一羽はチョウゲンボウではなく、なんとハヤブサであった。どこから飛んできたのか、夢洲では初見である。



前回目立っていたこのあたりの草地中心に営巢中らしいヒバリのさえずりとホバリングは今回姿をけし、セッカのさえずりのみ確認された。

2区と1区間の尾根の道に、野ネコが出ていた。休みの日は人間が来ないので、エサがほしくて道で人間が来るのを待っているのかもしれない。



昆虫類は相変わらず多く、バッタは外来種のアカハネであった。アオモンイトトンボが複数確認された。数十匹のシオカラトンボのほとんどがオス模様だった。(シオカラトンボのオス型デザインのメスがいらしいので、オスかどうか確実にはわからない)

3区南側岸壁水中には、エイがたくさん集まっていて、岸壁に吸着している貝を食べている様子が観察できた



(調査参加：山西良平 河合典彦 野田奏栄 磯上慶子 加賀まゆみ)